提出日：平成 21年1月9日

第 2 回　国内 FD 研修会　実施報告書

西田　光一（東北大学大学院情報科学研究科　准教授）

場所
情報科学研究科新棟311教室
日時
2008 年 12 月 15 日（月）午前 10 時 30 分～12 時
演題
東アジアにおける高等教育と IT メディアのインフラ整備の関係
講師
Tunku Abdul Rahman 大学（マレーシア），山口登志子助教授
参加者数
約２０人
概要および成果
研修会の概要 本学はアジア各国からの留学生が多く，かつ，日本国内で就職を希望する学生も多い。そのため，情報教育を推進する場合，学生が育った情報環境を踏まえた教育がますます望まれる。 本研修会では，マレーシアの大学で教鞭を執られている山口助教授をお招きし，マレーシアの情報環境について話をしていただくこととした。講師より，まず，現在居住するマレーシアについて，マレー系，華人系，インド系という民族別に区分された大学生の割合や情報機器の普及に関する話があった。その後，高等教育の現場におけるインフラ整備の状況等に言及しつつ，マレーシアでは，どのような IT メディアを使用した教育が行われ，それがどのように言語教育に貢献しているかについて説明があった。 マレーシアは，首都クアラルンプールの郊外にあるサイバージャヤの開発に代表されるように，国策で IT 関連のインフラ整備を進めており，大学の組織やカリキュラムもそれに応じて改変される。そのため，よくいえば，現在の成長産業からの需要に即応した大学が実現され，工業系の分野では有利になるが，裏を返せば，マレーシアの大学は安定性に乏しく，教員も学生も継続的な研究テーマに取り組みにくいということでもある。 また，IT メディアを集積した新地域は，多くの場合，既存の市外から離れたところにできるため，新キャンパス等に通勤・通学するようになった場合に移動手段の確保が大変であると現地の実情を踏まえた報告があった。インターネットでは瞬時に遠方にアクセスできるが，人間の実際の生活における時空のあり方は，そのようには出来ていない。インターネット上の時空感覚に実生活の時空を適合させようとするマレーシアの国全体での実験に確かな成果が出るのは，まだ先のことと考えられる。